

2016年の取り組み

チーム医療活動を推進できるコア人材育成を目的に6つのケアサポートチームが結成され、9年目を迎えます。毎年2月の月末に取り組みの実践報告会を開催し、成果発表を行ってま

排泄ケアサポートチーム

部長賞

今年は、おむつのフィッティングだけでなく肌のトラブル回避にむけて清潔ケアに重点を置き活動しました。

実践活動とチームの声

- ① 洗浄方法の検討を重ね皮膚法泡洗浄剤を導入し、肌荒れの改善に繋がりました。洗浄効果と、業務効率性、患者さんの満足度、全て向上しました。
- ② 排便と下剤の勉強会を開催し、排せつのメカニズムを理解しました。また、ポータブルトイレの仕組みと高さ調節の仕方を知り、安全安楽な環境づくりへの検討も行えるようになりました。
- ③ 排泄アセスメントシートの見直しができ、より個別のケアができるようになりました。1年間の取り組みにより排泄アセスメントの内容が幅広くなりケアの質に繋がりました。



看護部長コメント

病棟内の稟議書を通し、見える化しながら教育・指導、業務改善、ケア用品の見直しと手厚くチーム活動を実践する事が出来ました。皮膚法泡洗浄剤の導入は洗浄時の泡切れがよく寝たきりの患者さんにとっての皮膚環境が更に良くなりました。寝たきりで硬縮の強い患者さんのおむつのフィッティングは難しく個別に当て方の検討をしたり事例を用いてアドバイザーさんと共に職員むけに啓発していただきました。企画案が最も多く提出され活発に活動されました。

緩和ケアサポートチーム

心に寄り添ったで賞

亡くなられた後の家族の悲しみや喪失感に共感し、少しでも支えたい気持ちから、最後のケアであるエンゼルケアのあり方を見直ししました。

実践活動

- ① エンゼルケア用品の整理
- ② エンゼルケアマニュアルの作成
- ③ 家族参加のエンゼルケア～希望に沿った旅立ちの服装～
- ④ 退院時に想いでの写真をコラージュしてプレゼント

チームの声

医療の進歩により残された家族が死と向き合い受け止める事が難しくなっていると感じる昨今です。それだけに家族の悲しみ、喪失感は大きいと考えます。

今一度「看取る」ということを考え、忙しさを理由にエンゼルケアを業務化しないで家族の想いを汲み取り家族に寄り添うケアを目指していきたいです。

看護部長コメント

亡き後、家族と一緒にエンゼルケアを行うことが死を受け止め、きれいにすることが達成感を得たことでしょうか。ケアの際にかけたスタッフの言葉は心の準備なく死を迎えた家族の心に寄り添い、少しでも前向きに生きていけるようにと導いたことでしょうか。亡き後も本人の尊厳を保ち、患者家族の人生の価値観を十分尊重したケアを考えていただきました。ありがとうございました。



口腔ケアサポートチーム

包括ケア病床が新設され、在宅復帰される患者さんが増えました。入院から在宅へと継続して良い口内環境が保てるように家族への口腔ケア指導とパンフレットの作成を行いました。その他にも患者家族さんが期待するケアを考え実践しました。

いつもまえ向きで賞

実践活動

- ① 在宅復帰される患者さんのために個別のパンフレットを作成
- ② パンフレットを用いて退院前指導の実践
- ③ 義歯装着患者の管理と歯科訪問との連携
- ④ 表情筋マッサージの指導

チームの声

絵や写真を用いてその人のためだけのパンフレットを作成しました。「わかりやすい」と好評で口内環境も良くなり食事摂取量も増えました。退院後も継続されているかの調査方法は今後の課題です。表情筋マッサージの効果は食事摂取量の増加と嚥下機能の維持向上が見られやりに繋がっています。



看護部長コメント

個別で作成されたパンフレットは対象者が大切にされていると実感できる素敵なものでした。いつも熱心に前向きに取り組まれている姿はスタッフのお手本となっています。熱い思いがスタッフのみんなに響き、今ではきれいになるまで口腔ケアをするのが当たり前と1日1回ではなく満足いくまでケアをされているようです。家族へのバトンタッチもうまく軌道に乗るといいですね。こだわりのところはプロとしての誇りを感じます。

褥瘡ケアサポートチーム

チームの声

“痛々しい姿のままで帰してしまっておめんなさい”
“きれいな姿でご家族のもとへ帰してあげたい・・・”

快適で賞

慢性期病院において高齢者、がん末期患者、といった褥瘡ハイリスク患者が多く入院されています。まれに難治性褥瘡となり治癒しないまま亡くなる患者もみられる中、ケアの見直しとエアマットの導入基準を作成し多職種共同で褥瘡予防にあたりました。

実践活動

- ① マットの勉強会を企画
- ② 静止型マット、自動体転マットの試験的導入
- ③ エアマットの使用選択基準とマニュアルの作成
- ④ 評価選定のカンファレンスを定期的で開催 1回/週
- ⑤ エアマットを使用中でも下肢や踵のポジショニングの確認を啓発



褥瘡発生率がさらに減少!

予防、早期発見・早期治療が大切! エアマットは有効だった

看護部長コメント

エアマットの導入に向けて丁寧に使用基準を定め、マニュアルを作成し、多職種と共同で作り上げました。着目も「きれいな体を保つ」といった患者、家族の想いや尊厳を考えた良い企画でした。

毎月の症例のポジショニングをリハビリスタッフと共に病棟職員全員を対象に時間をかけて5分間講習を開催し現在も継続されています。患者さんが望まれる質の高いケアを常に追求されている努力を称えます。

呼吸ケアサポートチーム

チームの声

最終目標は“呼吸器が装着されていない患者と同様に週2回入れる”ですが現状は1人の患者に対し2か月に1回の入浴と清拭での対応が主となっている。11人の呼吸器装着患者さんの清潔ケアを保つためにより安全に、効率よく入れるためにも、業務の見直しとスタッフの誰もが状況判断できるための知識の向上を目的に1か月に1回の定例勉強会を開催した。

包括ケア病床新設によるスタッフの増員に伴い入浴介助者の配置を増やすことができた。

精度が上がったで賞



結果

週2回を呼吸器の入浴日としていたが週5回に設け結果1人の患者に1か月に2回入浴できるようになった。

看護部長コメント

呼吸器が装着されている状況下でも安心安全の入浴ができ、清潔が保てるように入浴回数を増やすことができました。

声を出してニーズの欲求を表現できない患者さんの気持ちを真摯に受け止め尊厳を保ったケアが行われていることに大変喜ばしく思います。

臨床工学技士、リハビリ科の皆さん等、多数のセラピストに協力をいただき病棟全体で取り組んだ成果の現れです。チームの皆さんがリンクネースとして方向性を導き精度を上げてくださいました。引き続き事故なく患者さんの心地よさを考えた実践をお願いします。

認知症ケアサポートチーム

H28年度4月の診療報酬改定により認知症ケア加算が新設され当院において認知症ケア加算2を取得するために手順書の見直し、棟内、院内研修の実施計画を企画しました。過去一年間に渡って抑制廃止0件を維持しているが包括ケア病床の開設により抑制廃止によるケアの困難さを実感しているところです。

患者さんの尊厳を守り安全で安心の療養生活が送れるようにと事例検討を重ねてきました。

ようがんばったで賞



実践活動

- ① 認知症の基礎知識と看護・介護の基本姿勢を記したマニュアルの作成
- ② グループワークによる事例検討会の開催
- ③ 転落転倒におけるチェックシートの見直し

チームの声

マニュアル作成は院内のどの部署のスタッフも同じ視点でかかわれると考えました。事例検討会は活発な意見交換となり新しい発見もありました。これらにより私たちのやるべき課題が明確化し連帯感が芽生えました。

看護部長コメント

高齢者の生き方、意思の尊重を事例を通して多いに学びがありました。チーム立ち上げの時より、院内の抑制グッズを廃棄し、マンパワーで抑制0(ゼロ)を目指して頑張ってきました。抑制からの解放は患者さんの心の拘束感も解き放ち、不穏行動が減りました。工夫を凝らしたアイデアグッズの利用などこれらは、患者さんにかかわる医師、看護、介護、セラピストの皆さんすべてのスタッフが理解し、同じ思いを共有しできないことだと思えます。チームを中心に気持ちを一つにまとめ協力し合って結果を出すことが出来ました。